

生駒市ごみ半減会議
各位

ごみ組成調査結果分析結果報告
(2013年3月調査実施)

V-1

2013年3月にごみ半減モデル事業の対象地区に実施した組成調査結果への分析結果を以下の通り報告いたします。

《組成調査対象地区》

- ・ひかりが丘
- ・壱分町東(ゴタニ池、第1公園前、ネオハイツ)
- ・俵口町

2013年5月21日
壱分町東 坂本剛伸

目 次

- I. 組成調査分析の基本的な考え方
- II. 組成調査分析の狙い
- III. 組成調査分析の参考情報
- IV. 組成調査分析の結果とコメント
- V. 組成調査分析結果の評価
- VI. ごみ半減モデル事業トライアル取り組み課題

I.【組成調査分析の基本的な考え方】

1. 2012年10月よし実施されているごみ半減**トライアル**の状況を**踏まえた**分析とする
2. 2013年3月に実施した懇談会及びアンケート調査(壱分町東)の結果を考慮し分析する
3. 月次で計量されている集計結果との傾向を比較する
4. 焼却ごみの総排出量の増減比較を行い順次カテゴリ別にブレイクダウンをしていく。

II.【組成調査分析の狙い】

1. ごみ半減トライアルを継続していく上での課題を抽出する
2. 課題の優先付けを行い**直近**に対応していくものと**中長期**に検討していく課題を明確に区分する

III.【組成調査分析の参考情報】

下記3情報を基に分析を行う

1. 組成調査結果地域別年度別一覧表(別紙A)
 - 1) 生駒市環境事業課で取りまとめた組成調査結果を基に作成
 - 2) 2012年8月に調査したデータと一覧で比較出来るようにする
 - 3) 市が大別している区分が「リサイクルできるもの」と以外となっているものを 現在仕組みとして「**資源化できるもの**」と「資源化ができず**焼却**しているもの」に区分する
 - 4) 1世帯当たり、一人当たりの分析は今回対象外とする
2. 2013年3月に実施したアンケート調査結果(壱分町東 別紙B 回収率53.8%)
 - 1) アンケートに回答された方はごみ半減に前向きに取り組んでいることが伺われる
 - 2) 資源ごみは全体として**7割～8割強**の方が分別をされている。
 - (1) プラスチックは洗い等の手間を除けば全員が分別している
 - (2) ミックスペーパーは約9割の方が何らかの分別をしている。
 - (3) 新聞・雑誌・ダンボールは約9割の方が分別をしている。
 - 3) 生ごみ処理は**半数以上が水切り**等意識が向上されているが堆肥・分解等の対応は2割強である。

《今後の課題》

- 1) 資源ごみの分別による**削減**は大きな**期待が出来ない**と思えることから生ごみの処理がやはり重要となっている。
- 2) キーエロのトライアルをしてみたいが7%あることから**堆肥・分解**への取り組み **拡大**をしていくことがポイントと考える。

3. 2013年3月に壱分町東で実施した懇談会(別紙C)

《総評》

- 1) 特にキーエロの状況については現在コンポスト等で堆肥処理をしている方若しくは水きり以外されていない方夫々の背景に関係なく興味を持たれた模様であった。
- 2) キーエロはベランダdeキーエロよりキーエロの方が分解処理の効果があるように見受けられる結論としては各家庭での環境を考慮し**コンポストとかの組み合わせ**が効果的といえるのではないか
- 3) ごみの減量は継続していくことが重要であることから日常の**生活の流れ**での仕組みの工夫をし実践していくのがポイントではないか
例えば**発生主義**で分別できるようにするとか無理をせず足元のできることから実践していく
- 4) 市より提供された**ミックスペーパー**は好評で分別に大いに役に立ったといえる
- 5) 12月度トライアル集積所の一つであるネオハイツでは12月度40%の削減がされたが主要要因として資源化分別の意識付けと牛乳パック等スーパーへの持込増加が考えられる

IV.【組成調査分析の結果とコメント】（一覧表から読み取れるもの）

1. 可燃ごみ総排出量合計（一覧表⑥）

- 1) 2012年8月に比し壱分町東は16～25%減少しているひかりが丘はほぼ同じであるが俵口は8%増加している
- 2) この傾向は月次計量結果のデータと比較しても同様であると言える

2. 焼却合計（一覧表⑤）

- 1) 2012年に比し可燃ごみ総排出量合計の増減傾向と同様となっていると言える
- 2) 壱分町東は9～17%強減少しているがひかりが丘は8%弱、俵口町は24%強増加している

3. 厨芥類（生ごみ）

- 1) 2012年8月に比し壱分町東は16～21%減少しているがひかりが丘で8%弱、俵口町は34%強増加している。
- 2) 2013年3月においても生ごみの可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも44～47%の割合となっている
- 3) このことは「ごみ半減プラン（2011～2020年度）にも市全体の統計として掲載されている生ごみの量の割合（35%）と同様となっている。
- 4) 壱分町東でのある家庭での計量実績（40%）ともほぼ同期している

4. その他（捨てるもの）

- 1) 壱分町東のネオハイツのみ19%減少しているが他地域は3～19%増加している。
- 2) 2013年3月においても捨てるもの可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも23～33%の割合をしめている
- 3) 従って生ごみと捨てるものを合わせると可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも約70%前後の割合を占めている

5. 資源化可能合計（一覧表④）

- 1) 2012年8月に比し全地域とも18～41%減少しておりバラつきはあるが分別処理が進んでいる。
- 2) このことは2013年3月壱分東アンケート調査結果と同期している

6. 紙類（一覧表①）

- 1) 2012年8月に比し分別度は全地域で13～40%の減少で資源化合計とほぼ似たような傾向となっている。
- 2) 2013年8月のミックスペーパーは全地域とも可燃ごみ総排出量合計に対し6～12%の割合となっているが紙類内でみると65～90%の割合となっている。

7. プラスチック類（一覧表②）

- 1) 2012年8月に比し分別度は全地域で12から41%の減少で資源化合計とほぼ似たような傾向となっている。
- 2) 2013年3月のプラスチック製容器は全地域とも可燃ごみ総排出量合計に対し6～10%の割合となっているが紙類内でみると76～81%の割合となっている。

V. 【組成調査分析結果の評価】

1. 今回実施した組成調査結果は月次に計量されている増減割合とほぼ同じ傾向にあると言える
2. 月次に計量結果の推移から伺えるようにトライアル事前・2012年10月度の比し月度により凹凸はあるが俵口以外は減少している。
俵口は別途別角度からも個別に分析が必要と考える
3. 今回実施した組成調査結果は同時期の2013年3月に実施したアンケート調査結果の内容を裏付けるデータとなっていると言える
4. 今回の生ごみの40%占めているという結果はごみ半減トライアル開始時点から想定されていたように生ごみの対応が最優先課題と言える
5. 紙類・プラスチック類等現在資源化ごみの分別処理は前向きな方は既に取り組んでおり今後大きく減少していくことは現実的に厳しいと考える
6. 捨てるものについては
 - 1) 可燃ごみ総排出量合計に対し24～33%とかなりの割合を占めているが恐らく買い控え等マインド的な要素が占めていると言える
 - 2) 資源化等減少させていくための仕組みを構築していくことは難しく現実として不可能に近いと思える
 - 3) 従って捨てるものを減少させていくことは当分出来ないものと考え必要がある

VI. 【ごみ半減モデル事業トライアル取り組み課題】

《総論》

1. 上記評価欄にも述べているがごみ半減トライアルでの今後の減少は多くは期待できないと見るのが妥当である
2. 特に資源化可能な分別処理が実質期待できない状況であること
3. 今回の組成調査結果でも確認されたように生ごみが全体ごみの半数近くを占めているため生ごみの量を減少していくことがごみ半減を実現していくキーとなっている
4. 生ごみの資源化を含めた仕組みの構築も含めた対応を最優先として取り組むべきである

《短期》

1. 生ごみ処理の対応
 - 1) ごみ半減トライアル中に生ごみ処理として具体的な施策として水切り、キエーロのトライアル、堆肥の促進等を中心に行っている
 - 2) 堆肥処理は既に来る環境をお持ちの方はトライアル以前から実施しており今後の増加は期待できない
 - 3) キエーロもトライアルされている方が数人規模であり冬場の分解能力の問題等もあり夏場でのトライアル結果の動向が注目に値する
 - 4) 現実的な取り組み施策
 - (1) 水切りの徹底の継続のお願い
 - (2) 市の予算負担でのキエーロのトライアルをして頂く方を増やす。
少なくとも現在キエーロのトライアルをしていない俵口町は生ごみの割合が一番高いこともあり積極的なトライアルを期待する。
2. 資源ごみの継続分別
 - (1) ミックスペーパー、プラスチック製容器を中心に分別処理の継続の啓発活動

《中長期》

- 1) 家庭生ごみを分解する等資源化していく仕組みを市が構築すべき検討を開始する
- 2) 例えばエコパーク21の活用とか具体的に設計し予算面の問題も含め明確に市民に発信していくべきと考える

